

臨床化学研修会報告書
生涯教育研修会報告書
学発番号 第 12-014 号

平成 24 年 7 月 2 日報告
報告者：後藤 直樹
所属：京都保健衛生専門学校
連絡先：075-801-2571

主題：臨床検査分野 研修会
主題 1：「知っているようで知らない骨代謝マーカー」
講師 1：三浦 雅一 先生（北陸大学薬学部長・大学院薬学研究科長）
主題 2：「免疫固定電気泳動法による M 蛋白同定」
講師 2：釜谷 悦三 氏（ヘレナ株式会社）
日時：平成 24 年 6 月 26 日（火） 18:30～20:30
場所：京都保健衛生専門学校 視聴覚教室
分類：臨床化学部門 4 検体検査 52 20 点
全体参加人数：26 人
京臨技会員参加人数：24 人
他府県会員参加人数：2 人
学生参加者：0 人
仮会員参加人数：0 人
非会員参加人数：0 人

以下、講演内容など

主題 1 北陸大学薬学部長の三浦雅一先生より、骨の代謝の基礎から骨粗しょう症の病態までお話いただいた。国内で 1,000 万人を超える骨粗鬆症患者がいると言われてい
る。今回は骨代謝の基本である、リモデリングについての話。リモデリングとは骨
を壊す働きをする「破骨細胞」が骨を吸収（骨吸収）する一方で、骨を作る働きを
する「骨芽細胞」が、破骨細胞によって吸収された部分に新しい骨を作る（骨形成）
ことをさしている。骨量は 20 代をピークとして減少しているが、このリモデリング
はずっと行なわれている。このような基本的な話をわかりやすくお話いただいた。
また、「骨粗鬆症診療の予防と治療ガイドライン」の紹介もされました。

主題 2 「免疫固定電気泳動法による M 蛋白同定」についてヘレナ株式会社の釜谷氏にお話

していただきました。本態性M蛋白血症（MGUS）は10年間に12%、20年間に25%が骨髄腫類縁疾患に移行するとの報告もあり、微量なM蛋白でも注意深く経過観察をすることが重要とされる。件数の多い検査ではないが、臨床的には重要であり見逃すことのできない病態である。今回は免疫電気泳動（IFP）と検出感度の高い免疫固定電気泳動法（IFE）の紹介、IFEの治療効果の判定についてお話いただきました。